

平成 26 年度第 1 回  
所沢市青少年問題協議会

会 議 録

平成 2 6 年 5 月 2 9 日

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度第1回所沢市青少年問題協議会
開 催 日 時	平成26年5月29日(木) 午前10時から11時35分
開 催 場 所	市役所6階604会議室
出 席 者 の 氏 名	別添名簿のとおり
欠 席 者 の 氏 名	別添名簿のとおり
説明者の職・氏名	
議 題	(1) 所沢市優良青少年及び青少年健全育成功労表彰について(非公開) (2) 意見交換(公開)
会 議 資 料	次第 青少年問題協議会委員名簿 所沢市青少年問題協議会条例 所沢市青少年問題協議会会長表彰候補一覧 所沢市優良青少年及び青少年健全育成功労表彰規程 所沢市優良青少年及び青少年健全育成功労表彰選考基準 三つ葉の提言
担 当 部 課 名	こども未来部 仲部長、本田次長 青少年課 井上課長、斎藤副主幹、小池主査、佐藤主査、松岡主事 (事務局) こども未来部青少年課 電話 04(2998)9103

様式第 2 号

発 言 者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
議長	<p>会長 藤本正人市長よりあいさつ</p> <p>青少年問題協議会設置条例第 6 条 2 項により会長が議長を務める。</p> <p>本日の議事に入る前に、事務局から会議の公開・非公開、会議録、発言者名の標記、署名者についての決定を求め、会議形式については、以下のように決定する。</p> <p>会議の公開・非公開について、議事（ 1 ）は非公開、議事（ 2 ）は公開、会議録は要約方式、発言者名は『委員』で統一、署名者は会長、副会長の 2 名とする。</p> <p>（議事に入る）</p> <p>議事（ 1 ）「所沢市優良青少年及び青少年健全育成功労表彰について」事務局より説明を求める。</p>
事務局	<p>青少年問題協議会の関係機関及び団体から推薦のあった個人 2 1 名、並びに 2 団体について、表彰規程や選考基準に照らし合わせたほか、過去の表彰履歴などを事務局で精査した結果、問題は無かった旨、説明。</p>
議長	<p>意見を求める。事務局案でよろしいか。</p> <p>「異議なし」の発言にて承認</p>
議長	<p>議事（ 2 ）意見交換として、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>今回の意見交換では、テーマを「各委員、団体が考える青少年健全育成とは」としており、「青少年健全育成」に係る市の考え方を、あらためて明確にし、考え方をまとめるため、各委員よりご意見をいただきたい。</p>
議長	<p>各委員よりご意見を求める。</p>
委員	<p>スポーツを通して、人間づくりをしているという立場で皆様の意見や子どもの意見を聞き、健康な活動づくり、また社会に出て少しでも役に立てる人間になれるよう支援している。</p>

委員	<p>また、子どもは市の宝ということで、これからも大事にしながらも、色々な面で地域の人に迷惑をかけない子どもを育てるのが使命と感じている。</p> <p>なお、子どもたちを指導するという事は、私たちもより一層の勉強をしなければいけないということを常々考えている。</p> <p>現在の少年事件の傾向と現状について、まず、高校生より中学生のほうが複数犯罪が多い。特にグループでの万引きであり、そのメンバーのほとんどは、不登校の者が多く、また親とも良い関係に無いことから、自分自身の居場所が無いと考えられる。</p> <p>以上のことから、家庭での愛情に飢え、学校でも馴染めず、居場所をなくし、同じ境遇の仲間を探し、お互いに慰めあうように不良交流に明け暮れている傾向が見受けられる。</p> <p>現状とすれば、非行少年を立ち直らせるためには、少年の居場所を作ってあげることが重要。義務教育である中学生であれば、同じ年代の友達がいる学校であり、高校生の年代であれば高校だけでなく、アルバイトや就職先である職場がこれに当たる。環境こそが非行防止の大事な要素であると考えている。</p>
委員	<p>現在、非行対策について、各学校で取組んでおり、いつでもどこでもすぐ動ける健やかさわやか支援室というものを設置している。同室では、元教員、心理士、警察官で組織しており、学校との連携を図ること、また家庭との問題解決、また支援をしている。</p> <p>最近の傾向として、携帯電話が普及しており、いつでも仲間と連絡が取れ、直ぐに集まることができ、それがグループ化を助長している傾向にある。</p> <p>また、小中学校の連携は大切なテーマだと思っており、各学校では、フロントごとにそのような取組みを進めている。</p> <p>今後も自分で困難に立ち向かったときに、また悪友から誘いがあったときに、しっかり断ち切り、自分が自分で判断できる、たくましく生き抜いていける力が必要と感じている。</p>
委員	<p>青少年の問題について、地域福祉を推進する立場で各関係団体、民生児童委員や更生保護女性会の方々、また保護司の方々と連携をし、経済が負のスパイラル、すなわち貧困な家庭で育つ子どもたち、また貧困な家庭で育っている大人たちをどうやって救っていくかということが必要である。特に青少年の問題ではどうしても負のスパイラルで引きこもりの家庭をどのように相談に応じ、</p>

委員	<p>いかにそれを社会参加させるかという課題がある。</p> <p>今後も、各関係機関が情報交換をする中でどういった家庭、どういった地域を作るか、問題のある家庭をどうやって救うのかといったことが必要である。</p> <p>青少年健全育成というものは、学校と家庭と地域がしっかりと連携を図り、活動を進めていくことが重要であると認識している。キーワードとしては、非行やイジメ、家庭内暴力、引きこもりがあり、青少年の育成機関というものは社会に出るための準備機会であると考えます。</p> <p>様々な社会活動を通じて、まず社会活動で社会を知るところから始まり、社会における行動の責任を認識し、社会地域への貢献というものを認識すること、また様々な体験を踏まえ、各自の将来に向けた目標や希望を持てる機会を学校、家庭共に提供することが大事。またスポーツを通じ、目標が明確であると、その目標を達成したいという気持ちが強くなり、また主体的に一生懸命頑張ることが出来るようになって考えている。</p>
委員	<p>青少年健全育成には、それぞれの小中高が一体となり、地域と連携を図ることが重要であると考えます。</p> <p>また、地域の生徒が地元の高校に通学し、それと共に地域の小中高と連携を図っていくことが理想と考えている。</p> <p>特に高校も地域に根差した教育をし、青少年の健全育成をしていくことが重要であり、最近のこととして、野球部の生徒が大雪の際に、率先し近隣住宅の雪かきを行い評価されたこともある。今後も、小中高や地域と連携を取り、青少年の健全育成を目指したい。</p>
委員	<p>青少年を健全に育成するには、異年齢の子ども達がお互いに協力し合って自然体験、社会体験、また生活体験等を通して、将来に向かって生きる力を蓄えていくことが必要であると感じている。それには、大人が仕掛け人となり、子どもたちに様々な体験をさせる機会を作ってあげるのが非常に大事である。</p> <p>また、子どもたちが地元で直接体験活動できる場所の提供も必要である。</p> <p>今般、子育て中の若いお母さんと青少年を育成する団体がつながりを持つ機会が少なくなっており、そのような機会を設けることが必要と感じている。</p> <p>若い世代は今育児に追われ、団体としては、なかなか若い人からの意見を聞けない現状があり、それを改善できればと思っている。</p>

委員	<p>最近、活動する中で所沢のエリアにおける事件発生について、エリアによって格差があり、事件発生の多いエリアと少ないエリアが混同している。</p> <p>今後は、事件が発生しやすいエリアを重点地区としてみていく必要があるのではないかと感じている。</p>
委員	<p>子どもたちを地域で見守るということで、挨拶や声かけが重要と考えている。そのような行動が、不審者対策にもなり、子どもたちにとっても地域の大人が見守ってくれているという思いになることが大事なことである。</p> <p>また、地域で発生する万引きについて、近隣のスーパーやコンビニ、ドラッグストアを調査し、その現状を地域の小学校や中学校に報告し、学校から保護者に発生状況などを伝えている地域がある。その他、青少年の健全育成をしている団体が、小学校や中学校を訪問し、様々な角度から学校と情報を共有し、今後の健全育成に役立てることが必要と感じている。</p>
委員	<p>各地域において、地域の小中学生を対象にしたイベントを企画、運営していくことが重要と考えている。</p> <p>そこで大人一人ひとりが子どもたちと触れ合い、心から共に楽しむことを心掛けること、また社会人、大学生、高校生そして参加者の小中学生という様々な視点を交え、一人ひとりが互いに気づかい、相手のためを思って行動することが大事であると考えている。</p>
委員	<p>青少年の健全育成を行う上で、地域での見守り活動を通し大人の支援から抜け落ちない体制づくりや、各学校の子ども会などの青少年活動団体にしっかりと所属出来ているかなど、地域としての大人の力が必要と感じている。</p> <p>また、地域の行事や活動を通じ、色々な立場の大人と交流し、触れ合うことが、大人になっていくための、また社会に出ていくための準備となり、貴重な経験になっていくと考えている。</p>
委員	<p>青少年育成のためには、それぞれの青少年健全育成団体がもっと前面に具体的な活動内容などの特徴を出すこと、また、子ども達はその活動に参加することで様々な経験でき、またその活動がどのような効果を生むかアピールすることが大事である。</p> <p>また、団体の指導者は、それぞれの活動の場が、子どもからの目線として安心できる居場所を提供するという意識を持つことが重要と考える。そのような</p>

	<p>意識での取り組みを各団体が実施していくことで、コーチや指導者が家庭のお父さんやお母さんと同じように自分を見守ってくれていると感じ、そして子ども自身が、自分はここにいる、つまりそこに所属する、居場所があるのだというようになっていくことが重要と考えている。</p>
委員	<p>青少年健全育成におけるキャンペーン活動等に参加し、所沢駅の周辺において関係者が集合し、多くの市民に周知活動を行ったが、市内各所に分散し、周知活動を行うのも効果があるのではと感じた。また、子ども達がどのような活動をいつどこで行っているのかといった情報を共有し、その活動場所で効果的に青少年健全にかかわる啓発活動を行うことも有効な手段と考える。</p>
委員	<p>まず、子供は家庭、自分の父親と母親、兄弟において育っていくことが重要である。家庭内で会話もなく、食事や就寝の挨拶もないご家庭もあるが、家族間での会話や挨拶のほか、感謝の言葉を大切にすることで健全な気持が子どもの中に染み入っていき、子ども達が自然と親に寄ってくると感じている。</p> <p>基本に立ち返れば、困難なことも簡単に一步一步進むのではないかと考えている。</p>
委員	<p>最近、子ども達と接する中で家族とのつながりが希薄であると感じる子どもが多くなり、家族以外でのつなぎの力が必要と感じている。</p> <p>また、子ども自身の主体性を身につけさせることも重要と考え、簡単な活動を子供たち自身で考えて進めるようにしている。</p> <p>その他、子ども達たちの居場所が無くなっていると感じていることから、特に年齢の高い子ども達については積極的に声かけをし、安心出来る場所を提供することで非行や、問題を未然に防ぎたいと考えている。</p>
議長	<p>各委員より意見をいただいた。他に意見の交換として発言を求める。</p>
委員	<p>中学生、高校生の居場所がないことについて、どのように子ども達たちが来るようになったのか、またどのような努力をされ、どのくらいの人数の子ども達たちが集まるのか。</p>
委員	<p>去年の中学生の利用数が年間で50人程度。</p> <p>大人との関係性が大事であると考え、どの学年でも平等に接するようにして</p>

委員	<p>いる。今年はほぼ毎日中学生が遊びに来ており、その中でも月に1回、閉館時間を7時まで延長し、中高生対象の事業「中高生遊びにおいで」という会を実施している。参考までに、先月は45名が来館している。</p>
委員	<p>子ども達が健康な体と心が育つよう、少しでも多く、子ども達が遊ぶ、またはスポーツをする施設や公園を有効活用し、健全育成をすることが重要である。</p>
委員	<p>キャンペーンについて、世間で起こる様々な出来事に対して有効な啓発活動の充実を図ることが効果的であると考え。</p>
委員	<p>家庭で子供に対して無関心な親への支援や、また保護者が保護者に対して教育することにより青少年の問題を解決することも理想である。</p> <p>また、保護者同士の連携を図ることで青少年の問題を解決する方法もあると感じている。</p>
議長	<p>子どもは、必ず最後には家庭に帰っていく。その家庭をどうするかという点が重要である。課題のある保護者にどうアプローチしていくかという点も非常に重要である。</p>
議長	<p>本協議会での意見を十分吟味し、今後の青少年健全育成の考えをまとめていく。なお、委員からの意見で紹介された野球部の生徒は表彰の対象となるのではないかと。</p> <p>「異議なし」の発言にて承認</p> <p>先の表彰承認の23件より1件の追加をし、24件の表彰者の承認を得る。</p>
事務局	<p>時間の都合があるため、以上で議事を終了とする。</p> <p>審議いただいた『優良青少年及び健全育成功労表彰』については、7月7日（金）午後1時からミューズを会場に開催される社会福祉大会で行う予定である。</p> <p>以上をもって、平成26年度第1回所沢市青少年問題協議会を終了した。</p>